

大会車両の通行について



東京2020大会では、「Be better, together/より良い未来へ、ともに進もう。」を持続可能性のコンセプトとし、さまざまな取り組みを進めています。

輸送においては、オリンピックおよびパラリンピックのワールドワイドパートナーであるトヨタ自動車株式会社から、燃料電池自動車(FCV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)・ハイブリッド自動車(HV)の電動車のフルラインナップでの車両提供を受け、CO₂など温室効果ガスの削減に積極的に取り組んでおり、過去大会と比較して最高レベルの環境負荷低減を実現します。

特に世界初の量産型燃料電池自動車のMIRAIは、水素を燃料とし、走行時には水以外を排出しない新世代のエコカーとして、水素社会のけん引役としての活躍が期待されています。

現在、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、大会準備のため大会車両の業務使用を開始しており、お近くで見かけることがあると思いますが、ご理解・ご協力をお願いします。



【大会車両(左から)：プリウス(PHV)、MIRAI(FCV)、ヴォクシー(HV *福祉車両は除く)】

